



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第10号
(8月29日～9月17日)



令和2年8月28日発表 樹上選果マン
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

つがるの収穫は遅れないように！鮮度が大事！！
着果量を点検し、樹上選果の徹底を！！
風害防止対策を万全に！！！！

I 概要

8月21日現在の果実肥大は、概ね順調であり平年並みから平年をやや上回っている。

つがるの熟度は、平年より3日程度進んでいることから、収穫始めは、黒石で9月7日頃からと見込まれる。今年は果肉先行型の傾向にあるので、着色だけにとらわれず、地色をよく見て収穫は遅れないようにする。

適正着果に向けて樹上選果が行われているが、園地や品種によっては着果量の多い樹がまだ見られる。着色管理や収穫の際に、見落としがないか、今一度着果量を点検し、樹上選果を徹底する。

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月30日～31日頃に行う。
台風に備え、防風網の点検、補強など風害防止対策をしっかりと行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

8月21日現在の果実肥大は、概ね順調であり平年並みから平年をやや上回っている。

果実肥大 (8月21日現在、横径：cm、平年比：%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	8.7	-	7.5
	平 年	8.0	-	7.2
	前 年	7.5	-	6.7
	平年比	109	-	104
青森市浪岡吉内 (東青地域県民局)	本 年	8.3	-	7.2
	平 年	8.1	-	6.9
	前 年	8.1	-	7.3
	平年比	103	-	104
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	8.7	7.9	7.3
	平 年	8.3	7.7	7.1
	前 年	8.3	7.8	7.6
	平年比	105	103	103
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	8.6	7.9	7.1
	平 年	8.2	8.1	7.1
	前 年	8.4	7.9	7.7
	平年比	105	98	100
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.0	7.4	6.9
	平 年	8.1	7.7	6.9
	前 年	8.2	7.6	7.3
	平年比	99	96	100

※各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測は調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月26日現在の熟度は、黒石で平年値と比較して、果重は大きく、糖度は同程度、酸度及びヨード反応はやや低く、硬度及び着色指数は低い。総合的にみて、熟度は平年より3日程度進んでいると見込まれる。

つがる(無袋)の熟度の進み

(調査月日：黒石8月26日)

地 域	年	果 重 (g)	着 色	硬 度 ($\text{h}^{\circ}\text{N}^{\circ}$)	糖 度 (brix%)	酸 度 (g/100ml)	ヨード 反 応
黒 石 (りんご研究所)	本年	278	0.3	14.6	11.3	0.298	4.3
	平年	241	0.8	15.7	11.2	0.310	4.5
	前年	223	0.7	16.2	13.1	0.271	4.5

注1 着 色：指数0～5 大きい数値ほど着色良好

2 ヨード反応：指数0～5 小さい数値ほどでんぷんが少ない

3 落果防止剤散布：8月18日

(3) 作業の進み(8月26日現在)

支柱入れや徒長枝整理、つがる等早生種の着色管理が行われている。

2 作業の重点

(1) 樹上選果

ふじ、王林等で着果量の多い樹がまだ見られる。今一度着果量を点検し、肥大の劣るものや果形の悪いもの、黒星病などの病虫害被害果、障害果の摘果を徹底する。なお、摘み取った病虫害被害果は適正に処分する。

(2) つがるの収穫

熟度は、平年より3日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で9月7日頃からと見込まれる。収穫は、地色、着色を見て2～3回くらいに分けて行う。

特に今年は、果肉先行型の傾向にあるので、着色にとらわれず地色をよく見て収穫は遅れないようにする。

山選果では、変形果や日焼け果、傷(障)害程度の大きい果実などを取り除き、良品出荷に努める。なお、山選果で取り除いた果実は、できるだけ加工用に仕向ける。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油あがり及早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

なお、ヒオモン水溶剤を散布した果実は、散布4日後までは収穫できないので注意する。

(3) 病虫害対策

ア 「8月末」の薬剤散布

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月30日～31日頃に行う。

散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布に徹する。また、散布むらが生じないように十分な量を丁寧に散布する。

薬剤の散布にあたっては、収穫前日数や年間使用回数などに注意する。

シンクイムシ類の産卵が続いているので、防除剤も使用する。

「8月末」の薬剤散布

地域	時期	薬剤名と倍数	散布量 /10 a
黒石	8月30 ～31日頃	アリエッティC水和剤	800倍
弘前		又はダイパワー水和剤	1,000倍
三戸		又はベフラン液剤25	1,500倍

①炭疽病の発生が例年多い園地でベフラン液剤25を選択した場合は、オーソサイド水和剤80の800倍も散布する。

②ベフラン液剤25やアリエッティC水和剤は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

イ 黒星病対策

発病葉・発病果は感染源となるので、葉摘み等の作業の際にも見つけ次第摘み取り、処分する。

二次伸長葉に黒星病の発生が見られた場合は、来年の感染源となるので、必ず摘み取って処分する。

黒星病の発生が多いところでは、オーソサイド水和剤80の800倍又はストライド顆粒水和剤の1,500倍を「9月中旬」に散布する。

ウ 「9月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

例年、すす斑病・すす点病の発生が多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、黒石、弘前、三戸で9月15日頃に特別散布を行う。

散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布に徹する。また、散布むらを生じないように十分な量を丁寧に散布する。

薬剤の散布にあたっては、収穫前日数や年間使用回数などに注意する。

なお、黒星病対策で「9月中旬」にオーソサイド水和剤80又はストライド顆粒水和剤を散布した場合は必要ない。

「9月中旬」の薬剤散布（中・晩生種対象）

地域	時期	薬剤名と倍数	散布量 /10 a
黒石 弘前 三戸	9月15日頃	オーソサイド水和剤80 800倍 又はストライド顆粒水和剤 1,500倍 又はトップジンM水和剤 1,500倍	500ℓ

エ 腐らん病対策

夏場は病斑の拡大が一時停止しているが、降雨により未処置病斑から胞子が飛散し、来年以降の発生につながる。胴腐らんの治療部を再点検し、病斑の伸展が見られる場合は直ちに適切な処置を行う。

オ 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。ポリオキシシンAL水和剤は、薬剤耐性の恐れがあるので、連続散布を避ける。

カ 炭疽病対策

りんご園周辺のニセアカシアやくるみ類などは伝染源となるので注意する。また、発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋める。

キ ハダニ類対策

ハダニ類の発生種を確認し、1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上を目安に散布する。

殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

サンマイル水和剤とバロックフロアブルは、リンゴハダニだけの、マイルコーネフロアブルは、ナミハダニだけの適用なので、薬剤の選択には十分注意する。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬 剤 名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイル水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
エコマイル顆粒水和剤	1回	○	○
オマイル水和剤	1回	○	○
コロマイル乳剤	1回	○	○
マイルコーネフロアブル	1回	×	○

○：適用する、×：適用しない

ク モモシンクイガ対策

被害果は見つけ次第、摘み取り7日以上の水漬けなど適切な処置をする。もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

ケ ナシヒメシンクイ対策

発生の多い園地では、9月以降もナシヒメシンクイ防除剤を使用する。

コ リンゴコカクモンハマキ対策

発生の多いところでは、フェロモントラップによる成虫の誘引消長を利用して適期にサムコルフロアブル10の5,000倍、エクシレルSE5,000倍、テッパン液剤2,000倍、フェニックスフロアブル4,000倍、ディアナWDG10,000倍のいずれかを散布する。また、果実に接触している葉を摘み取って、果実被害の軽減に努める。

サ クワコナカイガラムシ対策

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋し被害の軽減を図る。

(4) 中・晩生種の着色手入れ

着色手入れは、早生ふじで9月10日頃から、シナノスイート及びジョナゴールド（無袋）で9月20日頃からは行う。

なお、早くからの強い葉摘みは、品質低下を招くので行わない。

摘葉剤ジョンカラープロを利用する場合は、ふじのみとし、使用時期「収穫40～50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

(5) 中生種の除袋

ジョナゴールドの除袋は、9月15日～25日にかけて行う。着色むらをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉も摘み取る。

日焼けを出さないため、二重袋の内袋は、果実の色が黄色みがかかった時、あるいは薄い縞が入った時にはぐ。

(6) 徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊り

病虫害の発生源を少なくし、樹冠内部に十分日光を入れ、薬液の到達をよくするために、黄色品種でも不要な徒長枝を切り取る。

また、果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので、日焼けが発生しないように注意しながら支柱入れや枝吊りを行う。

ただし、高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないように、徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊りなどは控える。

(7) 乾燥対策

園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満の日）が2週間程度続くなど、土壌が乾燥状態にある園地では、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(8) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットの発生が懸念されるので、カルシウム剤の果面散布を行う。

カルシウム剤は、直接果実に付着するように散布する。なお、樹勢の弱い樹や高温時あるいは干ばつ時の散布は、薬害発生（葉縁褐変）のおそれがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(9) 風害防止対策

これから台風等の接近が多くなる時期になる。防風網やわい性台樹の結束などについて、再度点検し、補強や取り替えを行う。

また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や、腐らん病の被害等を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(10) 鳥害防止対策

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。なお、防鳥網の網目は35mm以下とする。

3 一般作業

- (1) 苦土欠乏対策 (2) 草刈り

4 今後の作業予定

- (1) 樹上選果 (2) 着色手入れ、除袋、収穫
(3) 風害防止対策 (4) 支柱手直し (5) 鳥害防止対策 (6) 草刈り
(7) 腐らん病対策

《 《 参観デーのお知らせ 》 》

りんご研究所（黒石市） 9月 3日（木）～4日（金） 9時～15時
りんご研究所県南果樹部（五戸町） 9月17日（木） 9時～15時
※新型コロナウイルス感染症対策として、入場時の氏名・連絡先の記載と検温（37.5℃以上は入場をお断りします）、マスクの着用にご協力をお願いします。

《 農薬使用基準の遵守 》

青森県農薬危害防止運動期間中（5月1日～8月31日）！

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

